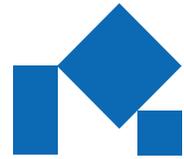


Press Release



The Museum of
Modern Art,
Kamakura &
Hayama

報道関係資料

2004年2月

神奈川県立近代美術館

ヴィルヘルム・レームブルック展

— 20世紀ドイツを代表する偉大な彫刻家の全貌 —

Wilhelm Lehmbruck

"Sculpture is the Essence of Things"

- 会期 : 2004年4月17日(土) - 6月13日(日)
- 休館日 : 月曜日(祝日の場合は開館)、祝日の翌日(4月30日、5月6日)
- 開館時間 : 午前9時30分~午後5時(入館は4時30分まで)
- 入館料 : 一般 1100円(1000円)
20歳未満・学生 950円(850円)
65歳以上 550円
()内は20名以上の団体料金です。
高校生以下の方、障害者の方は無料で入館できます。
- 会場 : 神奈川県立近代美術館 葉山
- 主催 : 神奈川県立近代美術館、ヴィルヘルム・レームブルック美術館、
「ヴィルヘルム・レームブルック展」実行委員会、
読売新聞東京本社、美術館連絡協議会
- 後援 : 東京ドイツ文化センター
- 協賛 : 花王株式会社
- 協力 : 日本航空
- 企画協力 : 空間造形コンサルタント

お客様お問合せ先は以下のご掲載ください。

神奈川県立近代美術館 葉山
〒240-0111 神奈川県三浦郡葉山町一色 2208-1
tel. 046-875-2800 / fax. 046-875-2968
URL: <http://www.moma.pref.kanagawa.jp/museum>

神奈川県立近代美術館

<http://www.moma.pref.kanagawa.jp/museum>

お問合せは葉山館・広報担当(稲庭・忌部)まで
さらに詳細な内容は担当学芸員(水沢・三本松)まで
tel. 046-875-2800 / fax. 046-875-2968

〒240-0111 神奈川県三浦郡葉山町一色 2208-1

ヴィルヘルム・レームブルック展

— 20 世紀ドイツを代表する偉大な彫刻家の全貌 —

Wilhelm Lehmbruck

"Sculpture is the Essence of Things"

20 世紀ドイツを代表する彫刻家のひとりヴィルヘルム・レームブルック（1881-1919）の日本で初めての大規模な回顧展を、デュースブルクのヴィルヘルム・レームブルック美術館とレームブルック家の全面的な協力を得て開催いたします。

レームブルックは、エルンスト・バルラッハ（1870-1938）とともに、19 世紀末から 20 世紀初めにかけて大きく変貌したドイツの近代彫刻の歴史のなかでもっとも重要な足跡を残しました。デュッセルドルフ美術アカデミーで伝統的でアカデミックな教育を受けたレームブルックは、1910 年にパリに赴き、《ひざまづく女》（1911）のような革新的な作品によって大胆に近代彫刻を先導する才能のひとりに数えられるようになります。その後、第一次世界大戦のさなかには、困難な状況下、《くずおれる男》（1915/1916）や《坐る青年》（1916/1917）のような人間の実存を直視する代表作を発表します。それらは現代に生きるわたしたちの心にいまだに深く訴えかけてくる烈しさを、静かな表現のうちに秘めています。それらは、レームブルック没後に人類が味わうことになる多くの悲劇を予告していたともいえるかもしれません。

今回の展示では、これらの代表作を含む彫刻 36 点、絵画、素描、版画 92 点が 7 つのセクションに構成され、また貴重な同時代の資料があわせて展示されます。20 世紀後半の代表的なアーティスト、ヨーゼフ・ボイス（1921-1986）の若き日に、「すべては彫刻だ」と直観させた偉大な才能の全貌に触れるまたとない機会になると思います。

- 展覧会構成
- I 習作と初期作品
 - II 肖像
 - III 母と子
 - IV 女性像
 - V 戦争の苦しみ
 - VI 男と女
 - VII 絶望と崩壊



《ピエタ》
1916 年
テンペラ / カンヴァス
レームブルック家遺産

Press Release



The Museum of
Modern Art,
Kamakura &
Hayama
神奈川県立近代美術館

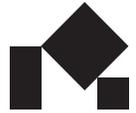
ヴィルヘルム・レームブルック 略歴

- 1881年 北ドイツのデュースブルク郊外マイデリヒに生まれる。父親は日雇いの坑夫。8人兄弟の4番目の子であった。
- 1901年 デュッセルドルフ美術アカデミーで彫刻を学びはじめる。
- 1904年 オーギュスト・ロダンの作品に接する。
- 1905年 最初のイタリア旅行。
- 1907年 デュッセルドルフにアトリエを構え、彫刻家として自立する。パリ訪問。
- 1908年 アニタ・カウフマンと結婚。翌年長男グスタフが生まれる。
- 1910年 家族とともにパリに移住。
- 1911年 《ひざまづく女》制作。ロダン、マイヨールらの影響を完全に脱する。
- 1914年 第一次世界大戦の勃発のためにパリからベルリンに転居する。
- 1915年 従軍画家に召集されるが、兵役を免れる。
- 1916年 マンハイム・クンストハレで個展。その後、チューリヒに移る。
- 1917年 女優エリーザベト・ベルクナーに出会う。
- 1919年 ベルリンのアトリエでガス自殺を遂げる。



《自画像》
1902年 鉛筆、黒チョーク
ヴィルヘルム・レームブルック美術館蔵

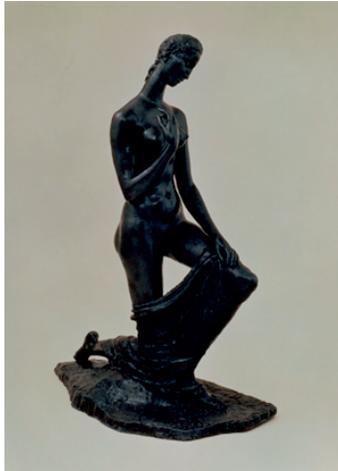
Press Release



The Museum of
Modern Art,
Kamakura &
Hayama
神奈川県立近代美術館



《水浴する女》
1902/05年 ブロンズ
ヴィルヘルム・レームブルック美術館蔵



《ひざまずく女》
1911年 ブロンズ
レームブルック家遺産



《立ち上がる青年》
1913年 ブロンズ
愛知県美術館蔵



《ものを思う女 (大)》
1913年 ブロンズ
レームブルック家遺産



《くずおれる男》
1915/16年 ブロンズ
レームブルック家遺産



《立っている女の頭部 (うつむく女の頭部)》
1910年 テラコッタ
ヴィルヘルム・レームブルック美術館蔵



《坐る青年》
1916/17年 ブロンズ
ヴィルヘルム・レームブルック美術館蔵